

令和元年度
「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン
助成活動報告



令和2年4月27日
NPO法人北海道遺産協議会

令和元年度「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン 助成先一覧(計6件)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	根釧台地の格子状防風林	中標津町など	一般社団法人なかしべつ観光協会、中標津町	地域の財産「格子状防風林を望む開陽台展望台景観整備事業」	300,000
2	石狩川	流域市町村	すながわマラニック大会実行委員会(砂川観光協会)	オアシスパークから体にいいことマラニック大会	150,000
3	天塩川	流域市町村	NPO法人天塩川を清流にする会	天塩川環境保全事業	150,000
4	ピアソン記念館	北見市	特定非営利活動法人 ピアソン会	ピアソン夫妻が北見に遺した「街を綺麗にする運動」のピール活動	100,000
5	昭和新山国際雪合戦大会	壮瞥町	昭和新山国際雪合戦実行委員会	昭和新山の周りをきれいに！1008 453(とうやよごさん)キャンペーン	100,000
6	パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)	札幌市	公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会	野外コンサートでの環境活動の啓発	100,000

1.地域の財産「格子状防風林を望む開陽台展望台景観整備事業」

■ 実施主体：一般社団法人なかしべつ観光協会、中標津町

■ 実施団体URL：<https://kaiyoudai.jp/jp/>
(一般社団法人なかしべつ観光協会HP)

■ 助成額：300,000円

ー活動内容ー

①北海道遺産「格子状防風林」PRツール（ロゴ）の制作

- ・より視覚的に興味を喚起するよう、ロゴマークを制作
- ・格子状防風林を想起させ、開陽台の「開」の字を活かしたピクトとして表現

②啓発と周知のための看板製作

- ・「開陽台」は中標津町民にとってパワースポットであり、以前はバイカーの聖地としても非常に知名度が高かった
- ・そのため中標津町の観光を発展させていくには、開陽台の再生及び格子状防風林のより一層の周知拡大が必要であると考え、寄付金を活用し開陽台の歴史や格子状防風林の役割を伝えられるパネルを制作
- ・中標津町に訪れた方が更に道内を巡るきっかけとなるよう、北海道遺産に関するパネルも作成した



遺産の名称：

「根釧台地の格子状防風林」
(中標津町など)



中標津町、別海町、標津町、標茶町にまたがる格子状防風林は、スペースシャトルからも撮影されたように、そのスケールにおいても地球規模的な、北海道ならではの雄大なもの。幅180m、総延長648kmの林帯は、防風効果だけではなく野生動物のすみかや移動の通路としての機能も果たしている。開拓時代の植民地区画を示す歴史的意義も持つ。

2.オアシスパークから体にいいことマラニック大会

■ 実施主体：すながわマラニック大会実行委員会（砂川観光協会）

■ 実施団体URL： <https://sunagawa-kankou.com/>
（砂川観光協会HP）

■ 助成額：150,000円

ー活動内容ー

- 9月22日に砂川遊水地と石狩川河川敷等の景色や自然環境を楽しむマラニック大会を開催。
- コース途中に複数の休憩スポットを設け、飲物や砂川産の野菜、お菓子などを提供して、砂川の名産品を知ってもらうとともに、コース上のビューポイントなどを紹介しSNS等を通じての情報発信を促した。
- 松浦武四郎が立ち寄ったとされる場所にある石碑付近に休憩所を設け、砂川市郷土研究会の協力のもと、参加者に北海道の歴史を知っていただく機会を設けた。
- さらに、参加者全員にゴミ袋を配布し、コース途中で見つけたゴミを回収していただき、河川環境の維持、参加者の意識啓発も行った。



遺産の名称：
「石狩川」（流域市町村）



大雪山系を源とし、上川、空知、石狩の大平野を形成して日本海に注ぐ大河川。北海道開拓の歴史の中で、度重なる洪水と闘いながらも、交通・物資輸送の道として大きな役割を担い、また、鮭漁など北海道の歴史と文化が刻み込まれている母なる川。石狩川の地引き網漁は江戸時代に始まり、昭和期には遠方からも多くの見物客が訪れたほどである。

3.天塩川環境保全事業

■ 実施主体： NPO法人天塩川を清流にする会

■ 助成額： 150,000円

一活動内容一

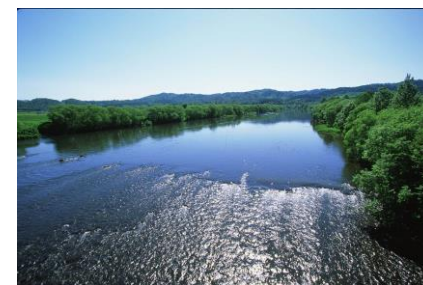
●子どもや地域住民、流域市町村の方々などを対象に天塩川のごみ拾いと天塩川振老旧川河畔林での植樹と巣箱の設置を行った

●ごみ拾いは約100名、植樹と巣箱設置活動には35名の地域住民の皆さんの参加をいただいた。

●特に巣箱づくり活動は地域の子供の参加があり、北海道遺産の天塩川や環境への理解が伝わった活動となった。来年度、設置した巣箱に鳥の繁殖を楽しみにしている子もいて、次年度につながる活動となった。



遺産の名称：
「天塩川」
(流域市町村)



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ（アイヌ語で「梁」（やな）の意味）が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができる日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポートから大河を下っていく。

4.ピアソン夫妻が北見に遺した「街を綺麗にする運動」のピーアール活動

- 実施主体：特定非営利活動法人ピアソン会
- 実施団体URL：<http://www.npo-pierson.org/>
(NPO法人ピアソン会HP)
- 助成額：100,000円

一活動内容一

- ピアソン夫妻が北見に遺した、街を綺麗にする奉仕の精神を、現在の北見市民に周知する活動を実施。
- 7月7日に「北見市&エリザベス市姉妹都市提携50周年事業」としてピアソン記念館で実施された「歓迎コンサート」のプログラムと、行事進行アナウンスで、北見市の街の美化活動（冬アカー掃活動）が、ピアソン夫妻の奉仕活動が原点であることを周知。
- 8月17日のコンサート「クラシックアコーディオンの世界」および9月28日のコンサート「クラシックギターの夕べ」のプログラムでもピアソン夫妻の美化奉仕を周知した。



「冬あかー掃運動」と「ピアソン記念館」

ピアソン夫妻が北見に住んだのは1914（大正3）年から1928（昭和3）年の15年間です。夫妻は北見の町の道路清掃を積極的推進していました。それは道路などに落ちている危険なガラス片や釘などを拾って、子供達が裸足で遊んでも怪我をしないようにとの配慮からでした。

ピアソン記念館が1971（昭和46）年に開館する時、そのピアソン夫妻の思いを今後の北見市の運動にしようと、全市の取り組みとして「冬あかー掃運動」を1972（昭和47）年春から実践することとなりました。半年間の道路上のゴミを、雪解けの4月に全市民で綺麗にしようということです。現在、この運動は続いています。運動の原点が語り継がれたため、市民は「なぜ早くに全市民が道路掃除をしなけりゃならないの？」と、運動の精神が忘れ去られようとしています。

その「人のために尽くす」精神を本年ピアソン氏の故郷エリザベス市姉妹都市提携50周年記念に、ピアソン会が企画する行事の案内や配布のチラシなどに明記し、市内の各種行事の折に、（株）伊藤園の実践している北海道遺産の自然環境保護や景観保全運動にわせて啓蒙していきます。

この展覧は、秋田県「自然と文化の宝庫」キャンペーンによる協賛事業です。

第2回文化サロンのピアソン

ギターの名曲を集めて
クラシックギターの夕べ

案 肉



2019.9.28(SAT) 17:00 ~
於：ピアソン記念館

遺産の名称：
「ピアソン記念館」（北見市）



アメリカ人宣教師G.P.ピアソン夫妻の私邸として1914（大正3）年に建てられた。夫妻は道内各地を伝道し、その終着に選んだ地がアイヌ語で「地の果て」を意味する野付牛（現在の北見）。廃娯運動や慈善活動など、夫妻の志は今も北見の精神文化のよりどころとして多くの市民に親しまれている。設計者は近江兄弟社創設者としても知られているW.M.ヴォーリス。

5.昭和新山の周りをきれいに！1008 453(とうやよごさん)キャンペーン

- 実施主体：昭和新山国際雪合戦実行委員会
- 実施団体URL：<http://www.yukigassen.jp/>
(昭和新山国際雪合戦実行委員会HP)
- 助成額：100,000円

一活動内容一

- 令和元年8月31日(土)午前8:20に道の駅そうべつ情報館を出発し、昭和新山周辺のごみ清掃活動に93名が参加した。コースを5つに分けてトラックで4トンのごみを回収した。
- 参加者には北海道遺産の昭和新山をみんなできれいに！というロゴ入りの再利用可能な啓発トートバッグを支給し、美化意識向上に努めた。
- 昭和新山国際雪合戦でも各チームに配布する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために大会前々日に中止が決定し、次回大会に配布することで各チームに理解を得た。



遺産の名称：
「昭和新山国際雪合戦大会」
(壮瞥町)



子どもの遊びを、大人が真剣に競う冬のスポーツとして確立したことは、雪国・北海道にふさわしい新しい文化といえる。ルール・用具の開発から、資金集め、企画運営まで地域住民が主体となって進められている。1989年に始まった大会の歴史の中で、まちの若者たちの情熱とアイデアは海を渡り、今では北欧など海外でも「YUKIGASSEN」が開かれている。

6. 野外コンサートでの環境活動の啓発

■ 実施主体：公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会

■ 実施団体URL：<https://www.pmf.or.jp/>
(PMF組織委員会HP)

■ 助成額：100,000円

ー活動内容ー

●2019年のパシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌は、27カ国地域から100名の若手音楽家（PMFアカデミー生）が参加し、世界を代表する音楽家から指導を受け、その成果を54演奏会で披露した。

●札幌芸術の森野外ステージでの7月13日に開催したピクニックコンサートには、Kitaraなどのホールでの演奏会とは違う大自然の中、未就学のお子様を含む老若男女がリラックスしてクラシック音楽を聴くことが出来る機会であり、来場者延べ6,300人に当日配布したチラシで自然環境の保全への理解を促した。

●また7月25日に開催した札幌市北三条広場でのPMFアカプラ・コンサートにおいても、看板にごみの持ち帰りをお願いする文言を掲載し、760名の来場者の皆様に周知を行った。



遺産の名称：

「パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）」（札幌市）



パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）は、20世紀を代表する音楽家、レナード・バーンスタインが1990年に創設した国際教育音楽祭。毎年夏の1か月間、世界中から厳しいオーディションで選ばれた若手音楽家（アカデミー生）が札幌に集い、欧米トップオーケストラで活躍する首席奏者等の指導を受ける。その成果は、札幌を中心に道内各地の演奏会で披露され、北海道の夏の風物詩として定着。